

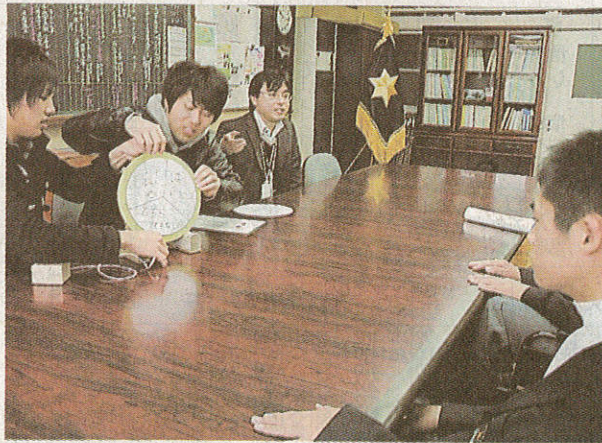
障害者の意思表示補助

有明高専生が福祉器具開発

柳河特別支援学校に寄贈

大牟田市の有明高専電
子情報工学科の学生が、

重度の身体障害や言語障害がある人の意思表示を手助けする福祉器具を開発し、15日に柳川市の県立柳河特別支援学校に贈った。



自分たちが開発した福祉器具の説明をする有明高専の学生(左)

器具は、ボタン操作で円形のホワイトボードの周囲に取り付けたLEDランプのうちの1カ所を点灯させて、ボードに書かれた「はい」「いいえな

どを示す仕組み。同科の石川洋平准教授の研究室に所属する学生が昨年6月から半年掛けて開発。昨年12月に九州の大学や高専生を対象に開かれた「大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト」では優秀賞を受賞した。

この日は、5年の古賀直樹さん(21)と井上陽平さん(20)が、石川准教授とともに訪れ、特別支援学校の生徒たちに器具の使い方を指導。生徒たちは思い通りの部分のランプが光ると目を輝かせていた。古賀さんは特別支援学校から細かい要望を聞き、さらに使いやすいものにした」と話した。